

令和元年度第5回きのくにコミュニティスクールの推進に係る 研修会（和歌山市会場）

1 日 時 令和元年11月25日（月） 13時30分～16時30分

2 場 所 和歌山市北コミュニティセンター

3 参加者 学校教育関係者、学校運営協議会委員、市町村教育委員会
きのくにコミュニティスクール担当者、公民館関係者等
計106名

4 ねらいと成果・課題

導入3年目の学校による実践例を通して、今後の「地域とともにある学校」づくりに向けた実践の充実を図る。

本研修により、他校の具体的な活動を聞くことができ、今後のそれぞれの学校や地域に必要な取組やコミュニティ・スクールの在り方を考えるきっかけとなった。

5 研修内容

(1) 実践発表

A 『生徒が社会とつながる仕掛けづくり

～西浜中学校コミュニティ・スクール～』

和歌山市立西浜中学校 十河 秀彰 校長

○活動内容

- ・同窓会組織「浜友会」を母体として設立
- ・紀の国森づくり基金を活用し、「水軒堤防に松を植える会」とともに水軒堤防に松を植樹
- ・森林組合に委託し、生徒会役員や部活動で希望者を募り間伐体験やモノづくり体験を実施
- ・浜友会・PTA・生徒の模擬店、吹奏楽部及び近隣高校の音楽部の演奏を行うサマーフェスティバルを開催
- ・「ボランティア活動」「生徒会活動」をテーマに作文コンクールを行い、優秀作品を文化祭で発表
- ・音楽家として活躍している卒業生等を招き、隔年で音楽祭を開催

○成果と課題

- ・3年目になり、地域の方の学校への出入りが、生徒も教員も日常のことと受け止められるようになった。今までの関わりを大切に、地域と学校が、無理のない範囲で取組を広げられた。
- ・カリキュラム・マネジメントに位置づけ、PDCAサイクルを回していくことが必要
- ・生徒がボランティア活動に参加できる条件整備が課題である。

B 『コミスクdeふれあい』

和歌山市立宮北小学校 道本 美月 校長

○活動内容

- ・コミュニティ・スクールを地域の方に知っていただくために、宮北コミスク通信全戸配布
- ・宮北子育て応援し隊大募集
- ・学習支援（九九おたすけマン等）
- ・環境整備・安全（見守り隊等）
- ・専門的教育支援（防災教育等）
- ・文化、スポーツ行事（クラブ支援等）

* 地域Kidsボランティア

学校がお手伝いしてもらっただけではなく、学校が地域のためにできることとして結成。今年度は、地域防災訓練や地域ふれあいお食事会に参加



○成果と課題

1年目 立ち上げの年

2年目 整理の年、熟議の年

* 新しいことを取り入れながら今できることに目を向ける。

* 子供たちのために「何が出来ているか」「何が出来るか」

3年目 出会う年、ふれ合う年

* 思いついたらやってみる。

* アイデアは口に出してみる。

来年は しっかりつなぐ年

* これまでの蓄積を組織化、見える化

C 『浜宮応援団に感謝！感謝！』

和歌山市立浜宮小学校 伊勢 真朝美 校長

○活動内容

- ・民生委員の協力により、サツマイモ植え
- ・浜の宮ビーチの清掃活動（海開き前）
- ・昔遊び（けん玉やお手玉、あやとり）
- ・消防団体験教室

○成果と課題

- ・地域の方が、専門性や経験を生かして教えてくださるので、教員や教科書だけでは得られない知識や技術を伝えていただくことができた。また、大勢で来ていただけることで、実技指導などではかなり効果を上げることができている。
- ・防犯の点や文化の継承・郷土愛を育むという点においても、地域の方や保護者の方々と顔見知りになることは大切である。
- ・地域連携担当教職員や地域コーディネーターとなる人材の確保が必要である。
- ・カリキュラムマネジメントの視点で、教職員と共に考えて、年間計画に組み入れる必要がある。
- ・教職員へのコミュニティ・スクールの役割や重要性についての周知する必要がある。

(2) 情報交換・ディスカッション



(3) 講演

『地域とつながるコミュニティ・スクール』

NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク

理事長 生重 幸恵 氏



- ・ 今後の10～20年間で約47%の仕事が自動化されるという予想や子供達の65%は、大学卒業後、今は存在しない職業に就くことになるという予想、これからの生産年齢人口が減少する見込みであることなど、現代の子供達を取り巻く不安要素は多い。
- ・ 現代の子供たちは、学びに対する興味関心が希薄であり、体験や経験が少ない。「なぜ勉強しなければならないのか」「今の学習が将来どのように役立つのか」などについて発見すること、また心を揺さぶられ、納得できたと思える具体的な経験や体験が必要である。
- ・ 地域とつながった子供は、自分が育った環境を誇りに思うようになり、この心が、ふるさとを、日本を大切にすることを心につなげていく。だから、地域とともに活動を広げていって欲しい。

6 参加者の声（アンケートより）

（1）学校関係者

- 中身のある活動につなげるためにはカリキュラム・マネジメントの視点で年間計画に組み入れる必要性も感じた。
- 変化する社会で生きていく子供たちのために使えるマンパワーは最大限活用し、教師はファシリテーター役となっていくことが大切だと思った。

（2）学校運営協議会

- 和歌山をどう盛り上げるか。和歌山をどう育てるか。すごく心が熱くなった講演であった。
- 講師先生は、広い見識と実践力、現場サイドをよく知っていて、コミスクにかけけるパワーが全身からにじみ出ている。
- 無理に続けるのではなく、継続性を大切にして、様々な方に参加していただけるように取組の工夫が必要だと感じた。

（3）その他

- 実践発表では、地域へ子供が出て行ったり、地域が学校支援に来てくれたりといった連携が、どの学校も進んでいると感じた。生重先生の講演は、コミスクの本質に迫る内容で大変よく理解できた。
- 地域によって抱えている課題は様々であるなど改めて感じた。その課題に応じてそれぞれの学校で、どう対応していくかが今後のCSの在り方を決めていくと思う。